

「PTA活動と連携した学校運営のあり方」

—活動の活性化と教頭のかかわり—

I はじめに

PTAは、家庭及び地域と学校が一体となって児童・生徒の健全な成長・発達を願って行う活動である。したがって、PTA活動の活性化は、教育活動の活性化につながり、特色ある学校づくりに重要な役割を果たす。

甲州市は、桃やブドウ、ワインが特産の農業と観光の町で、祭りや地域の清掃作業等を通して住民の結びつきは比較的強いと思われていた。しかし、近年は、少子化による地域の希薄化、社会状況の変化により会員の参加意識の多様化や会員数の減少やPTA活動に係る事務負担の増加、活動のマンネリ化等により、組織や活動内容そのものを見直す時期にきているなど、1年目の実態調査で課題として浮かび上がってきた。

そこで、2年目にあたる本年度は、関東ブロック研究大会山梨大会での提言に向け、実態調査の考察を踏まえ、PTA活動への参加意識を高め、PTA活動を活性化するために教頭はどのように関わったらよいか、取り組むべき内容を具体的に絞る方向で研究を進めていくこととした。

II 研究のねらい

- 1 各校のPTA活動の現状と教頭のかかわりについて実態調査の内容を把握し、課題を明確にし、課題に向けての具体的方策の検討と各校の現状と実践発表する。
- 2 PTA活動への参加意識を高める工夫を考え、活動を活性化し、積極的に参加するための教頭のかかわり方について提言する。
- 3 提言を生かした実践から、PTA活動を活性化するための教頭のかかわり方について成果と課題をまとめる。

III 研究内容

今年度の研究は、昨年度の実態調査と実践報告から浮かび上がった課題を、具体的な取り組みを通してどうPTA活動を活性化していくのか、どんな工夫をするのかを確認し、研究を深めた。また、11月の関東ブロック研究大会山梨大会に向け、提言内容についての研究を進めていった。

PTA活動を活性化するための具体策としては、次にあげた3つの柱を研究の中心に据え、各校で取り組んでいった。

- (1) 各ブロック小中学校が、課題を克服するために工夫した点を踏まえた、具体的実践報告と活性化に向けた研究。
- (2) 関東ブロック研究大会山梨大会発表に向けた提言内容の研究。
- (3) 3年次(まとめ)に向けての具体的実践の調整・まとめ・評価。

また、教頭の積極的な関わりとして、以下の3つのことを各小中学校で、意識して取り組んでいくことも確認した。

- ① 保護者の意見を吸い上げ、参加しやすい体制をつくる。
- ② 便りやホームページなど、細やかな情報発信を心がける。
- ③ 親子で一緒に汗を流したり、一緒に学習したりして経験を共有すること。

この中から、今年度は特に③に関わり、「子供と一緒に活動する場の設定」をより意識した計画的なPTA活動の実施と工夫について研究を深めていくこととし、このような教頭の積極的な関わりがPTA活動の活性化につながってくることを確認していった。

IV 成果と課題

昨年度行った調査と実践報告から、PTA活動の学校運営に果たす役割や重要性がはっきりした。PTA活動の目的を踏まえて1年間を見通す視点や、在校児童・生徒の願いを考える視点をもってもらうためには、事務局（教頭）の関わり方の工夫が不可欠である事が確認された。一方では教頭として活動にどうかかわっていくか、特に、組織運営や会員の意識向上等、各校で頭を悩ませている現状も明らかになった。

以上から、1年目の研究を踏まえて、本年度はPTA活動の活性化に向けて、教頭として留意したいこと及び考えられる具体的取り組みを次の5点にまとめた。

- 1 PTAの取り組みに対する保護者の要望や考えをできるだけ早く把握する工夫
 - ・活動前後のアンケート調査の実施
 - ・小中合同の活動の実施
- 2 地域住民の学校への期待や要望を把握し、地域と連携した活動にする工夫
 - ・積極的で細やかな情報発信
 - ・地域に関する情報収集
- 3 奉仕作業や学校行事への協力の機会を会員の参加意識の向上につなげる工夫
 - ・参加しやすい体制づくり
 - ・父親の参加を促す活動の実施
- 4 子供と一緒に活動する場の設定
 - ・「子供のためになった」と実感できる活動の企画・運営
- 5 組織や活動内容が実態に即しているかの自己点検
 - ・執行部・役員との連携・協力体制作り
 - ・役員との信頼関係構築

この5つの取り組みは、各校のPTA活動の活性化につながる一つの成果とも言える。各校の教頭が、自校のPTA活動を行う際にこの取り組みを意識していくことが、活動の活性化に必ずつながってくると思う。そう考えると、この5つの柱は大きな成果と言える。と同時に、この5点を各校教頭先生をはじめ全教職員が意識して取り組んでいけるかが課題ともなってくる。

時代は、コミュニティースクールに向けて大きく動き始めており、山梨県でも保護者と学校が連携し、地域を巻き込みながら地域と共に児童・生徒のより良い教育環境を作っていくことが重要になる。今後は、教頭として学校を取り巻く課題を十分把握しながら、さらにPTA活動の活性化を学校運営との連携強化につなげていくためさらに、研究を深めていきたい。

（文責：研究部長 加山 大洋）